

科目名 (英)	生理学 I Physiology I	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	嶋田 琢磨
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	後期
				曜日・時限			

【授業の学習内容】

生理学は人体の諸器官の機能に関する科目であり、解剖学と合わせて臨床医学系を理解する上で必須となる科目である。生理学 I では人体植物性機能である物質の消化及び吸収や心臓、循環の調節機能、呼吸調節機能、腎臓における排泄機能、体温調節機能等様々な調節機能について学習する。また、各調節機能に密接に関わる内分泌系調節(ホルモン調節)についても学習する。

嶋田

実務実績 鍼灸院等での勤務後、鍼灸院を開院。診察から治療までの業務に従事
医療系専門学校にて教鞭をとる。

資格 はり師、きゅう師

【到達目標】

- ①心臓機能・循環機能の調節について理解する。
- ②呼吸調節について理解する。 ③消化吸収、排泄について理解する。
- ④体温調節機能について理解する。 ⑤内分泌調節について理解する。⑥上述の機能の一連の関係性について説明できる。

授業計画・内容

1回目	生理学の基礎 細胞の構造と機能、物質代謝、体液の組成と働きについて説明することができる。
2回目	消化と吸収 栄養素の分解吸収の仕組みについて説明することができる。
3回目	消化と吸収 栄養素の分解吸収の仕組みについて説明することができる。
4回目	消化と吸収 代謝、肝機能について説明することができる。
5回目	栄養と代謝 各栄養の働き、代謝について説明することができる。
6回目	栄養と代謝 各栄養の働き、代謝調節について説明することができる。
7回目	体温 体温調節機構について説明することができる。
8回目	体温 体温調節機構について説明することができる。
9回目	内分泌 ホルモンの特徴、種類、調節機構について説明することができる。
10回目	内分泌 ホルモンの特徴、種類、調節機構について説明することができる。
11回目	内分泌 ホルモンの特徴、種類、調節機構について説明することができる。
12回目	内分泌 ホルモンの特徴、種類、調節機構について説明することができる。
13回目	内分泌 ホルモンの特徴、種類、調節機構について説明することができる。
14回目	生殖、成長と老化 生殖機能の特徴と成長に伴う変化(特徴)について説明することができる。
15回目	1～14回までの学習内容の理解度を確認
準備学習 時間外学習	事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 2年次、3年次の臨床系科目の基礎となるため必ず、講義の復習が必要になります。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

数研出版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録
医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 生理学
日本医事新報社 人体の正常構造と機能、

科目名 (英)	生理学 I Physiology I	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	嶋田 琢磨
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

生理学は人体の諸器官の機能に関する科目であり、解剖学と合わせて臨床医学系を理解する上で必須となる科目である。生理学 I では人体植物性機能である物質の消化及び吸収や心臓、循環の調節機能、呼吸調節機能、腎臓における排泄機能、体温調節機能等様々な調節機能について学習する。また、各調節機能に密接に関わる内分泌系調節(ホルモン調節)についても学習する。

嶋田

実務実績 鍼灸院等での勤務後、鍼灸院を開院。診察から治療までの業務に従事
医療系専門学校にて教鞭をとる。

資格 はり師、きゅう師

【到達目標】

- ①心臓機能・循環機能の調節について理解する。
- ②呼吸調節について理解する。 ③消化吸収、排泄について理解する。
- ④体温調節機能について理解する。 ⑤内分泌調節について理解する。⑥上述の機能の一連の関係性について説明できる。

授業計画・内容	
16回	循環について 血液の組成と機能について説明することができる
17回	循環について 心・血管機能について説明することができる。
18回	循環について 心・血管機能について説明することができる。
19回	循環について 循環調、リンパ系について説明することができる
20回	呼吸について 呼吸器系の機能について説明することができる。
21回	呼吸について 換気とガス交換について説明することができる
22回	呼吸について 呼吸運動について説明することができる。
23回	呼吸について 呼吸運動について説明することができる。
24回	排泄について 腎臓の働きについて説明することができる。
25回	排泄について 腎循環・尿生成について説明することができる。
26回	排泄について 腎臓と体液の調節について説明することができる。
27回	排泄について 畜尿と排尿について説明することができる。
28回	身体活動の協調について 生体の適応、恒常性維持について説明することができる。
29回	身体活動の協調について 生体の適応、恒常性維持について説明することができる。
30回	身体活動の協調について 生体の適応、恒常性維持について説明することができる。
準備学習 時間外学 習	事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 2年次、3年次の臨床系科目の基礎となるため必ず、講義の復習が必要になります。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	臨床系科目の基礎になる科目であるため、単純に理解ではなく説明できる程度にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
数研出版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 生理学	